



農林水産大臣賞受賞を知事に報告した宮崎大の池ノ上克学長（前列左から2人目）

大学最高賞 宮崎が最 県内初の農水大臣表彰 3/8 持続可能な農業推進コンクール

宮崎大学は、「未来につながる持続可能な農業推進コンクール（GAP部門）」で最高賞の農林水産大臣賞を受賞した。県庁でこのほど、河野知事に受賞を報告した池ノ上克学長は「県の担当職員や県民の皆さんのおかげ」とお礼。同賞の受賞は教育機関としても県内でも初めてという。

コンクールは農林水産省が主催。前身の環境保全型農業推進コンクールとして1995年から実施され、2017年にGAP（農業生産工程管理）部門が新設され、現名称になった。

を実施し、267人の学生がJGAP指導員資格を取得。県GAP指導員養成研修に全面協力、県や市町村、JAの職員ら500人以上の指導員を養成してきた。

表彰は9日付。新型コロナウイルス感染症の影響で表彰式が中止されたといい、酒井正博農学部長は「江藤（拓）大臣から直接、表彰状をいただいたかったが、農水省の職員の方に直接持参いただいた。これからも県や県民と力を合わせて、農業を推進していきたい」と語った。

同大は11年、国内の大学で初めてJGAP（青果物）認証を取得。14年には畜産部門で国内初のグローバルG・A・P・認証を得て現在、いずれも認証を継続している。GAP教育プログラム

絵本「のべおかのパツクンいわ」とユネスコエコパーク圏域の活動団体を紹介した冊子



延岡市が啓発絵本作成

主人公は「パツクンいわ」

宮崎、大分両県6市町にまたがる祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの普及啓発を図ろうと、延岡市が幼児から小学校低学年向けの絵本「のべおかのパツクンいわ」を作成した。4月から市内の小学校や幼稚園などに配布する。

宮崎、大分両県6市町にまたがる祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの普及啓発を図ろうと、延岡市が幼児から小学校低学年向けの絵本「のべおかのパツクンいわ」を作成した。4月から市内の小学校や幼稚園などに配布する。

草原を守る会（甲斐英明会長）など17団体。活動内容を写真と記事で紹介している。

絵本はA4判横32ページ。主人公の「パツクンいわ」とは、延岡市北方町上鹿川の銚岳登山道脇にある岩。口をパツクンと開けたようなユニークな形が登山客の人気を集め、「インスタ映えするポイント」で全国に発信されている。

配布対象はおおむね3歳児から小学校1、2年生の計約4800人。5800冊作り、市内の児童館や児童クラブ、エンクロスなどにも置く。また、県内の電子書籍を無料で閲覧できる「miyazaki ebook s」に特設サイトを開設、絵本の読み聞かせ動画を掲載する。

【冊子に紹介されている団体】五ヶ所高原ゴマ姫の草原を守る会▽フォレスト・マンツル上鹿川▽佐伯地域ユネスコエコパーク推進協議会▽NPO法人おくんこツリースム研究所▽柴北川を愛する会▽高千穂森の会▽家田の自然を守る会▽川坂川を守る会▽山寿ふれあいくらぶ▽ゲストハウスLAM P豊後大野▽祖母山麓自然・人・共生空間整備プロジェクト実行委員会▽NPO法人サン・ウィレッジ▽日之影町癒しの森の案内人の会▽高千穂山の会▽宇目文化

推進協は団体紹介の冊子

物語は、パツクンいわが誕生した1400万年前の火山活動から始まる。祖母、傾、大崩山系の地形の成り立

一方、両県などをつくる推進協議会は、圏域で活動する地域団体を紹介した冊子「party」を発行した。

団体は、高千穂町五ヶ所高原で絶滅危惧種